

ネット使用がソーシャルサポートの提供に与える影響

○安藤玲子 高比良美詠子 坂元章

(金城学院大学) (中部大学) (お茶の水女子大学)

キーワード：ネット使用、友人関係、ソーシャルサポートの提供、因果関係、高校生

問 題

同期性と非同期性を兼ね備えたインターネット(以後、ネット)は、時間と場所を選ばないコミュニケーションを可能にし、子どもでも広く利用されるコミュニケーションツールとなった。また、ネットの普及は、従来のように対面で出会ったオフラインの関係に加え、ネットを介して出会ったオンラインの関係という新しい対人関係構築の機会をもたらした。そして、子どもの友人関係にもオンラインの関係が含まれるようになってきた(安藤ら、2005; 安藤・高比良、2006)。

このような中で、子どもの社会的関係へのネットの影響についての関心が高まっており、ソーシャルサポートなどを扱った研究がいくつか報告されている。例えば、病気や様々な問題を抱える子どものオンラインサポートグループなどでの効果を示す研究は比較的多い(Tichon & Yellowlees, 2003 など)。一方、一般の子どもの日常的なネット使用からの影響を扱った研究はまだ多いとはいえないが、中学生対象のパネル調査(安藤ら、2005)や高校生対象のパネル調査(安藤・高比良、2006)で、いずれも、ネット使用が友人から受けるソーシャルサポートを増加させる効果を持つ可能性が指摘されている。なお、これらの研究では、友人に関して、学校などの対面で知り合った「オフラインの友人」と、ネットを介して知り合った「オンラインの友人」とを異なるサポート源として検討し、ネット使用が特にオンラインの友人からのソーシャルサポートを引き出すことに有効であるという可能性を指摘している。

このように、ネット使用は子どもが友人から受けるソーシャルサポートを増加させているようである。しかし、これらの研究では、友人から受けるサポートのみを扱っており、友人に与えるサポートは含まれていない。ネットにアクセスしてソーシャルサポートを得ている子どもたちは、ネットを介して相手にソーシャルサポートを与えている可能性もある。ソーシャルサポートは互恵的なほど、精神的健康に良いと言われており(谷口・福岡、2006)、ネットを介したソーシャルサポートについて検討する場合、提供されるソーシャルサポートに関する検討も併せて必要と考えられる。

そこで、本研究では、子どもが友人に与えるソーシャルサポートに焦点をおき、ネット使用がソーシャルサポートの提供に対し、どのような影響を示すのかについて、高校生を対象にパネル調査を行い、検討することにした。

なお、本研究では、PC からのネット使用に加え、子どもでの普及率が高いケータイからのネット使用として、ケータイのメールとネット使用も合わせて検討を行った。ケータイの機能のうち、特にケータイのメールは、対面では言いにくい言葉や気持ちなどを気軽に伝達できる手段として最も使用頻度が高いツールであり(中村、2001)、ソーシャルサポートへの影響が予測できる。したがって、ケータイからのネットアクセスも検討に含めることが妥当と考えたからである。

方 法

対象者

4か月のインターバルをおいて行った2波のパネル調査に参加した関東の私立高校2校の1年生628名(男子486名、女子142名)を分析対象とした。

調査項目

ネット使用量 PC からのネット使用として、1) Eメール、2) BBS やメーリングリストへの投稿、3) Web ページやBBSの閲覧、4) Web ページの作成、5) チャット、6) オンラインゲームなどの各ツールについて、また、ケータイからのネット使用として、7) メール、8) ネットについて、それぞれ1週間の総使用時間を「やっていない」から「3時間以上」までの7件法で尋ねた。なお、ケータイに関しては、更に、1日の使用回数を実数で尋ねた。

ソーシャルサポート 安藤・高比良(2006)と同様に、学生用ソーシャルサポート尺度(久田ら、1989)から選ばれた情緒的サポート項目13項目に、勉強で生じた疑問への援助などの道具的サポート項目5項目を追加した18項目を用いた。そして、ネットを介して知り合った「オンラインの友人」と、学校などの対面場面で知り合った「オフラインの友人」に対し、自分が行っていると思うサポートの頻度をそれぞれ「まったくない」から「よくある」までの6件法で尋ねた。

結 果

因果関係の分析方法

ネット使用がソーシャルサポートの提供に与える影響について、図1の交差遅れ効果モデルを用いて構造方程式モデリングで検討した。このモデルで、例えば1時点目のEメール使用量から、2時点目のオンラインの友人へのソーシャルサポート(破線のパスa)に有意な正の効果が示された場合、Eメールの使用が多いと、オンラインの友人へのソーシャルサポートが増加するという因果関係が推定できる。

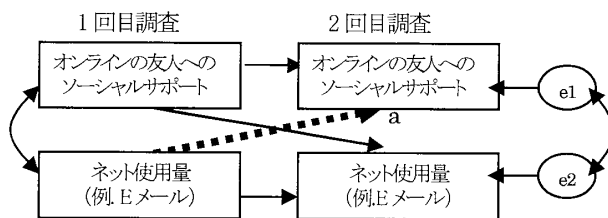


図1 交差遅れ効果モデル

因果関係

ネット使用がソーシャルサポートの提供に与える影響

分析の結果、Web ページの作成以外の PC からのネット使用および、ケータイからのメール使用が多いほど、オンラ

インの友人へのソーシャルサポートが増えていた。また、PCからのWeb ページやBBSの閲覧とケータイからのメール使用が多いほど、オフラインの友人へのソーシャルサポートが増える一方で、ケータイのネット使用が多いと、オフラインの友人へのソーシャルサポートが減っていた(表1)。

表1 ネット使用から友人へのソーシャルサポートへの影響

	ソーシャルサポート	
	オンラインの友人	オフラインの友人
PCからのツール別ネット使用 (使用時間数/1 週間)		
E メール	.11***	
BBS, ML 投稿	.13***	
Web ページ, BBS 閲覧	.13***	.06***
Web ページ作成	.06†*	
チャット	.16***	
オンラインゲーム	.15***	
ケータイからのネット使用		
メール(使用時間数/1 週間)		
(使用回数/1 日)	.12***	.14***
ネット(使用時間数/1 週間)		
(使用回数/1 日)		-.06***

注:ここでは、有意傾向以上の効果がみられた場合の数値のみを示した。*** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, † $p<.10$

考 察

本研究の結果から、高校生では、PC のネットは、主にオンラインの友人へのソーシャルサポートに使われる一方で、ケータイのメールは、オンライン、オフラインを問わずに友人全般へのソーシャルサポートに使われていることが示唆された。

まず、PC のネット使用が、オンラインの友人へのソーシャルサポート提供に与える影響に関してみると、チャットやオンラインゲームなどの同期ツールのほうが、BBS などの非同期ツールよりもやや高いようであったが、Web ページの作成以外はほぼ同等の効果を持っていた。

本研究の結果を、PC のネット使用によって、オンラインの友人からどの程度のソーシャルサポートを受けているかを検討した先行研究(安藤・高比良, 2006)と比較すると、効果の出方に、相違点があった。具体的には、安藤・高比良(2006)では、オンラインの友人から受けているソーシャルサポートに、プライベートツールである E メールは何ら効果を持たず、同期的ツールよりも BBS やメーリングリストなどの非同期ツールのほうがより効果を持っていた。

ネットでソーシャルサポートを受ける際には、BBS やメーリングリストなどの不特定多数を対象とする非同期ツールは、一つの投稿に対して、多くの返事をもらえる可能性が高く、最も効率よくソーシャルサポートを得る方法といえる。一方、ソーシャルサポートを与える側になると、提供者は自分しかいないため、サポートを提供するツールの違いが出にくいと考えられる。そのため、作成に時間がかかる Web ページの作成の効果は低くなるが、それ以外は効果にあまり差が

なく、リアクションに時差のあるBBSよりも、チャットなどのように、同期的交流が盛んになるツールのほうが、ソーシャルサポートを与えているという実感がやや増す程度なのかもしれない。

なお、ソーシャルサポートは互恵的なときに、健康に良いとされるが、個人間での互恵性が保たれていなくても、所属するソーシャルネットワーク全体での互恵性が保たれていれば良いという指摘がある(谷口・福岡, 2006)。この考えは、匿名性が高く不特定多数との交流が含まれるネット上のソーシャルサポートに適用しやすい。すなわち、ソーシャルサポートの提供に関する本研究と、ソーシャルサポートの受領に関する安藤・高比良(2006)の結果から、高校生のオンライン友人との関係は、ネットワーク全体でソーシャルサポートをやりとりしあう互恵的関係にある可能性が示されたといえそうである。

ただし、ネット上でも個人的関係は多く存在する。そのため、特定の個人間でのソーシャルサポートの互恵性がネットでも重視されるのかについては今後の検討が必要だろう。

次に、オンライン、オフラインを問わず、友人全般へのソーシャルサポート提供に効果のあったケータイのメールについて考えてみよう。ケータイのメールは、普段会うことの多い対人関係で使われることが多く、PCのEメールよりも使用が容易で、対面で言い難いことを気軽に伝達できるツールである。そのためお互いの体験や感情を共有する機会を多くしているという(中村, 2001; 辻・三上, 2001)。したがって、ケータイのメールからオフラインの友人へのソーシャルサポート提供に効果が示されたことは理解しやすい。

その一方で、オンラインの友人へのソーシャルサポート提供にもほぼ同等の効果を持つことは、興味深い。これは、ケータイのネット機能が PC と同様に、オンラインの友人へのソーシャルサポート提供に有効に使われている可能性を示唆しているといえる。若年層では PC よりもケータイからのネットアクセスのほうが盛んになってきているという近年の状況から、オフライン友人だけでなく、オンライン友人との関係形成にも、ケータイメールは日常的に使われているのだろう。あるいは、この結果について、PC のネットを介したオンライン友人との関係が進展して、個人ツールであるケータイのメールで交流する機会が増加した可能性も指摘できる。

今後は、オンラインとオフラインの友人で、ケータイメールでやり取りしている内容や、提供しているサポートに違いがあるのか、ケータイメールを介したソーシャルサポートをどのように捉えているのかなどについての検討が望まれる。

参考文献

- 安藤玲子・高比良美詠子 (2006) ネット使用がソーシャルサポートに与える影響 — 高校生のツール別ネット使用の効果 — 日本パーソナリティ心理学会第15回大会(東京富士大学)発表論文集, 130-131.
- 安藤玲子・高比良美詠子・坂元章 (2005) インターネット使用が中学生の孤独感・ソーシャルサポートに与える影響 パーソナリティ研究, 14, 69-79.
- 谷口弘一・福岡欣治 (2006) 対人関係と適応の心理学 — ストレス対処の理論と実践 — 北大路書房
- Tichon, J., & Yellowlees, P. (2003) Internet social support for children and adolescents. *Journal of Telemedicine & Telecare*, 9, 238-240.

(あんどうれいこ・たかひらみえこ・さかもとあきら)